日本声楽発声学会

学会通信

第6号

会員の皆さまへ

理事長 米山文明

学会通信第６号をお届けいたします。

前号発行後の学会行事として、第７８回例会が平成１５年１１月に行われました。その内容は近く学会誌３２号が発行されますので、そちらをご覧ください。３２号の内容は７７回例会（平成１５年５月）、夏季研修会（平成１５年８月）、７８回例会（平成１５年１１月）の研究発表、特別講演、シンポジウム、現役声楽家コーナーなどの記事が中心となります。

「学会通信」も今期執行部の新発足にともなって、３年前に創刊されました。学会誌で扱う研究発表や公式行事のほかに、執行部と会員および会員相互のコミュニケーションを少しでも円滑にし、多くの情報をできるだけ速く提供したいという目的で発行してきました。したがいまして、あまり堅苦しくならず、自由に発信できる場として活用していただきたいと念じてきました。しかし私の印象ではまだ一方通行になりがちなのが気になります。

会員諸兄姉のご意見が多くなり、学会運営の各面で活発に反映されていくことが望まれます。これまで批判的なご意見や苦情がなかなか直接聞こえてきませんので、今回は運営責任者としての私がこの３年間に感じた点を、個人的意見で僭越ですが一端を述べます。

まず会員の皆様の積極的な研究発表をより多く欲しいこと（演奏、教育、理論の各面で）。そして例会の場で発表に対する活発な議論を遠慮なくたたかわせて欲しいことです。これが学会本来の使命であり、最もふさわしい姿であります。それが学会発展の原動力ですから、ぜひ皆様にお願いします。

これにつきましては理事会サイドにも大きな反省点があります。とくに最近の例会での研究発表について、いくつかの不適切ではなかったかと思われる点です。何人かの会員からも直接、間接に私およびほかの理事の耳に入ってきています。皆様から文書（メモでも）でいただければこの「通信」に載せたいと思っています（匿名でも結構）。

当然ながら学会の本質は研究発表が中心にあるべきですから、発表内容の質の良否が問われます。そしてその発表の適否をチェックする理事会は重大な責務を負っています。しかも究極の責任は私にありますから、私も十分それを認め、反省しております。

しかし一面で本学会の性格上むずかしい点は、論文発表と異なり、演奏、教育の実技面に関わる部分の実態評価が、あらかじめ提出される文書の抄録だけでは判定困難な点もあり、実践内容が把握しにくいこともあります。さらにその独創性（originality）についても、理事会内の知識だけでは前以て具体的実技内容を確認する資料に乏しいこともあります。

もう一つの問題は研究発表のチェックをあまりきびしくすると発表意欲を阻害することにならないかという懸念があります。それでなくとも現在、発表数が少なく、より多くの会員発表を熱望している理事会としては頭の痛いところです。

しかし、それはそれとして学会本来の使命である研究発表の質の低下と妥協してまで節を曲げる必要はないというのが私の見解です。理事会としても今後これらの難点を再検討し、最善の対応を考えながら学会運営の改善、発展に少しでも寄与できるよう努力していく所存です。皆様のご鞭撻とご協力を切にお願いいたします。

◎第４０回総会第７９回例会のお知らせ

５月例会を下記にて開催いたします。会員の皆さまはもとより、お知り合いの方や生徒さん方をお誘いの上、ご出席ください。

1、と　き　5月３０日（日）10時～17時
2、ところ　東京芸術大学音楽学部
3、プログラム
　A、研究発表　米山文明・川上勝功
　　河合孝夫・竹田数章、清野久芳
　B、総　会
　C、特別講演　神 須美子　蒲原史子
　D、現役声楽家の演奏とお話
　　ロシェル・エリス（ソプラノ）
　　マーヴィン・ケンズィー（ピアノ）
　E、フリートーキング

〔R・エリス女史プロフィール〕

声楽指導者。ミズーリ大学、カンサス市立音楽学校卒業。ライダー大学ウェストミンスター聖歌専攻科修了、音楽修士。ダイアン・フォルラーノ、ノーマン・グルブランジェン、シェイラ・ドゥーガン、マルタ・ロングマイアーに学ぶ。シカゴ交響楽団、ホノルル交響楽団等と共演。セントルイス歌劇場、シカゴ室内歌劇、ミルウォーキー野外オペラ等でオペラ出演。イリノイ大学、コンコルディア大学、ウェストミンスター各講師。

……

〔会員の声〕

正しくないと言える勇気　　山田　実

・日本の学生たちは教師に対して反論することはほとんどない。ましてや声楽の個人レッスンともなればそれは皆無であろう。先生に絶対の信頼を置いているのはさておき、反論すれば生意気のレッテルを貼られ、その後の悪影響を考慮してのことが多いと思われる。

アメリカの学生はしばしば教師に反論する。それに対する教師の応対は２種ある。

1）君がそう考える理由は？
　（生徒応答）僕は……の理由でこう解釈する。
　（そして生徒は納得）
2）僕の専門ではないので時間が欲しい。
　（次回のレッスンの時）君の考えは正しい。
　　僕がまちがっていた。

・歳末恒例のＮ響の第９で、去年は久しぶりにソリストが４人とも日本人だった。そして初めて近代ドイツ語（語尾のｒを巻かない）で歌っていた。驚いたことに冒頭でバリトンのソロのテキストを繰り返すはずの合唱が全く同じ言葉を古典ドイツ語（ｒを巻く）で歌っていた。気づかなかったのか訂正できなかったのか。いずれにせよ数多い第９の演奏会で、やはりＮ響のものは模範となるべきではないか。

・「おれたちは本当のことを言っていたら食えない」。ある評論家の言葉。

・１月３日夜、ニューイヤー・オペラ・コンサートの終了は９時。そして同一プログラムで翌４日の午後２時から本番。

ポピュラー歌手ならともかく、オペラ歌手が全国ネットの生中継で全力を尽くした後、数時間でベストの演奏が期待できようか。拒否すれば出演させてもらえない。「歌っていただく」のではなく、「歌わせてやっている」の結果。

（タイトルは「徹子の部屋」の大江健三郎氏の発言から。）

研究発表への期待　　相談役 飯田忠文

かつて本学会の学会誌編集委員長を２期６年勤め、研究発表規定の作成に携わった私の立場から見ると、近年の例会や学会誌の内容は、少し間口が広くなりすぎているように思われます。本学会の在り方としては、あくまでも発声法、歌唱法および指導法についての会員による研究発表（論文、口頭、演奏等）を中心に置き、学術的なレヴェルの高い例会を期待する人の集ま

りであってほしいと思います。

なお例会での口頭発表の内容は、論文の概要を説明するようなものではなく、もっと小さなテーマについて調査、実験、ヴィデオ、生演奏、公開授業などの手段を使って、生き生きとした日頃の実践や研究の発表となるよう期待しています。規定では口頭発表する人に論文を書く義務はないのです。

……◇……◇……◇……

【Q&A】

声帯のポリープと結節

―手術すべきか否か―

声を使う職業の方で声帯のポリープと結節という病名を知らない方はないでしょう。自分の経験はないとしても友人、知人から聞いたことはあると思います。それについての一情報です。

いずれも声帯にできるものですが、似ている点と違う点があり、そのどちらであるかによって対応の仕方もかなり変わってきます。

〔原因と症状〕 どちらも似た原因と症状があります。症状として嗄声（声嗄れ）があり、原因として声の乱用があります。声の乱用といっても、声を使う量（１日の使用時間）が多い場合と、声の使い方の誤り（無理な発声方法や声の酷使、間違った発声など）があります。

良い発声でも使用時間が長すぎてはいけませんし、短時間でも乱暴な使い方をすれば起こります。しかし同じ環境で、似た使い方をしていても悪くなる人とならない人がありますから、個人差としての体質もあるでしょう。また同じ原因でも結節になる人とポリープになる人がありますが、その原因はわかりません。結節は手や足にできるまめ・たこのようなものです。

〔治療方法〕 ポリープと結節のどちらであるかによって対応の仕方はかなり変わります。簡単に言いますと、ポリープの場合は手術的治療になる場合が多く（約９０％）、逆に結節の場合は保存的治療（手術せず）を優先します（約９０％）。その理由の一つとして、ポリープでは手術後の再発はほとんどありませんが、結節では手術をしても、声の使い方を改善しない限り再発の可能性がかなりあるからです。

（どちらであるか自分で見分けるには？）

嗄声という同じ症状ですが、ポリープでは嗄声の程度がほとんど一定しており、あまりよくなったり悪くなったりの変動がありません。一方の結節では初期の段階はかなり嗄声の程度が変動し、よいときと悪いときが変化します。つまり声を使う量が多いときは嗄声は増し、使用量が少ないとき（日曜、祭日、夏休、冬休など）はかなりよくなります。

〔私の治療方針〕 複数の医療機関で明らかにポリープと診断されたケースや、私が初診でポリープと診断したケースでも、手術せずに完治した例がいくつかあります。

私は原則として典型的なポリープでも、初期段階ですぐに手術はしません。まず保存的治療を試み、治療効果が期待できない時期を確認してから手術を決めます。ある一定期間（約一週間）を区切って徹底した発声制限と保存的治療を行い、症状の変化（嗄声度と局所所見）の有無を見て方針を決めます（因みに、私が早期に手術を決めない理由は、他の医療機関で手術を受けた後に、かえって嗄声度が憎悪したケースをかなり多く経験し、手術の危険度を知るからです）。

（F.Y.生）

〔長野支部だより〕

第５４回例会

と　き　３月１３日（土）１時～4時30分

ところ　長野市城山公民館２０３室

内　容１、体験発表と質疑応答

「私の音声障害と治療経験」

発表：久保田寿美子・佃　邦芳

本田すみ江・飯田忠文

司会：飯田忠文

２、ヴィデオ視聴「発声のしくみ前編」

監修：医学博士 米山文明
解説：飯田忠文
3、フリートーキング
4、歌唱実習（瀧廉太郎　原典版）
雀・お正月・荒城の月・花

●全米声楽指導者会議　第４８回例会●

日程：2004年7月8日～12日
ルイジアナ州ニュー・オーリンズ

「歌とジャズのすべて」

公開レッスン、室内歌曲、フランス歌曲、身体構造、音声生理学等の講座のほか、コンクール、リサイタル等も開催。市内観光や晩餐会などもあります。

・一　般	5月1日まで＄250	以降＄275
・学　生	＄75	＄75
・同伴者	＄125	＄150

※詳細は、山田実に照会のこと。
℡03-3726-1439　voicem@£00.itscom.net

〔会員便り〕　　**◆演奏会◆**

◇　丹羽勝海　LIVE with FRIEND

2004年2月3日(火) 開場午後6時

日本のオペラ界を牽引してきた丹羽勝海理事のSTB139（スイートベイジル六本木）初登場ライヴ。クラシック歌手デビュー４３年目の節目にライヴハウスでの新境地に挑戦しました。愛の歌・恋の歌を中心に、ジャズやポップスの世界で活躍している住友紀人、鶴谷智生達のグループと加納久仁子のピアノの伴奏で、普段のコンサート会場では見ることのできない丹羽勝海の世界に誘い大好評でした。

◇　丹羽勝海リサイタル　２００４年春

2004年4月18日（日）午後1時30分開演
会場：銀座ヤマハホール　4,500円
出演：テノール　丹羽勝海
ヴァイオリン　まどか・まるこ
ピアノ　加納久仁子・安田ひろき
曲目：サティー「ジュ・トゥ・ヴー」
フォーレ「月の光」
デュパルク「旅への誘い」
ドビュッシー「パリの女を讃える」
「愛の讃歌」「枯葉」
ミヨー「スカラムッシュ」より　他
主催：グローバル・イッキ

◇　ドイツ・ハイルブロンより
ハインリヒ・シュッツ合唱団を迎えて

2004年4月10日(土) 午後6時開演
S:5,000円 A:4,000円 学生:3,000円
会場：カザルスホール（御茶ノ水）
指揮：ミヒャエル・ベッチャー
淡野　弓子
出演：Z.ファンダステェーネ（福音史家）他
共演：ハインリヒ・シュッツ合唱団（東京）
曲目：J.S.バッハ“ヨハネ受難曲”
H.シュッツ“ダヴィデ詩篇８”
チケット予約　℡03-3970-0585（MUSICA POETICA）

〔事務局より〕

◎第８０回例会（平成１６年１１月２８日〈日〉）の研究発表を募集いたします。学会誌に掲載の「研究発表規定」にしたがって、お申し込みください。締め切りは５月３０日（日）です。
◎会員の皆さまからの「学会通信」への投稿をお待ちしております（誌上での匿名可）。第７号の原稿締め切りは１６年９月末日、事務局必着です。近況報告（演奏会、研究会etc.）や出版、CD 制作等、日ごろの活動の様子などお寄せください。　（事務局長　川上勝功）

学会通信　第6号
平成１６年3月２６日発行
日本声楽発声学会事務局
〒275-0005 習志野市新栄２－９－２　西村暁子方
TEL/FAX. 047-479-5701